

第9次鹿角市社会教育行政中期計画

(令和8年度～令和12年度)

令和8年3月

鹿角市教育委員会

目 次

第1章 策定にあたって

1	第9次鹿角市社会教育行政中期計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけと期間	1
3	推進体制	1
4	評価体制	1

第2章 現状と課題

1	社会教育の現状	2
2	第8次計画の評価と課題	3

第3章 基本理念、基本目標及び施策

1	目指すまちづくりの将来像	9
2	第9次鹿角市社会教育行政中期計画基本理念	9
3	施策の体系	10
4	施策の展開	11
	基本目標Ⅰ 社会教育施設やデジタル技術を活用し、生涯学習環境の 充実を図ります	11
	基本目標Ⅱ 持続可能な地域社会の創り手を育成します	12
	基本目標Ⅲ 地域・学校・家庭が連携し、子どもたちの育ちと双方向 の学びを支援します	13
	基本目標Ⅳ 社会問題や地域特性に応じた学習や活動を支援します	14
	基本目標Ⅴ 文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します	15
	基本目標Ⅵ 誰もが尊重され、共に学びあえる地域社会の実現を目指 します	16

第1章 策定にあたって

1 第9次鹿角市社会教育行政中期計画策定の趣旨

鹿角市では、平成18年に改正された教育基本法（平成18年法律第120号）及び、令和2年3月に策定された「第3期あきたの教育振興に関する基本計画」の趣旨を取り入れながら、本市の実情を踏まえた「第8次鹿角市社会教育行政中期計画」を令和3年3月に策定し、社会教育施策を着実に実施してきました。

この間国では、令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」が閣議決定され、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング※1の向上」の2つのコンセプトを掲げ、各種施策が講じられています。

本計画は、令和3年度から令和7年度までの第8次鹿角市社会教育行政中期計画のもとに実施した施策の検証や取組の評価等を踏まえ、向こう5年間における本市の社会教育の指針を定めるものです。時代の変化を的確に捉えた学びの機会を提供することで、生涯学習の理念※2の実現と、社会教育に関する施策を体系的かつ計画的に推進するとともに、具体的な施策の方向性を示すため、本計画を策定するものです。

2 計画の位置づけと期間

本計画は、第7次鹿角市総合計画を上位計画とする個別計画です。総合計画との整合性を図りながら、生涯学習の理念に沿った社会教育の推進に関する計画とします。

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

3 推進体制

本計画の推進にあたっては、教育委員会と、市の社会教育に係る部局が中心となって推進します。また、地域づくり協議会等や国・県・他市町村とも連携し、効果が得られるようにします。

4 評価体制

本計画に掲げる事業は、進捗状況を毎年度把握し、社会教育委員の会議で報告を行い、助言等を経て次年度の取組に反映させることとします。

本計画に掲げる取組成果を点検するため、目標ごとに「成果指標と目標値」を設定します。また、目標値は本計画の最終年度である令和12年度を目標として設定します。

第2章 現状と課題

1 社会教育の現状

鹿角市の人口は市制施行前の昭和30年をピークに減少に転じ、近年では毎年平均して約2.0%ずつ減少しており、今後も緩やかな減少傾向が続くと見込まれます。なかでも生産年齢人口の減少幅が大きいと見込まれ、地域を支える住民の減少は、地域産業の成長力やまちの魅力を低下させることにもつながるほか、縮小がさらなる縮小を招く「縮小スパイラル」に陥ることが予測されています。総人口が減少する中であって、今後も本市の持続的な発展を維持していくためには、地域を支え、未来を創る高い志を持った人財を育成し、生産性や創造性をより一層高めていく必要があります。

加えて、めまぐるしく変化する社会情勢や多発する災害、感染症の流行等、先行き不透明で将来予測が困難な「VUCA※3の時代」と言われている現代においては、若者が単なる社会の担い手ではなく、未来の社会の創り手として活躍し、豊かな人生を切り開いていく力を身につける必要性が高まっています。こうしたことから様々な社会の変化に積極的に向き合い、学校教育、社会教育、家庭教育に携わる多様な人々が連携しながら、課題を解決していく力や態度を身につけられる学びを提供していくことが重要です。

また、未来技術の進展については、移動通信システムが生活・社会基盤として進化しているほか、対話型をはじめとした生成AI※4等の技術が急速に発展し、活用が進んでいく一方で、情報通信技術（ICT）へのアクセスや利用能力における格差、セキュリティやプライバシーへの懸念など、デジタル化をめぐる課題が顕在化してきています。社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）※5が加速していく中、社会教育分野においても、デジタルの強みを生かした学びを提供し、すべての人がデジタル化の恩恵を受けられる社会を構築することが重要です。

常に時代をとらえつつ、未来を見据えた学びに加え、本市の持つ歴史や伝統、文化、人財を活かした学習活動も継続して行う必要があります。人口減少社会にあって、文化財を保存・継承していくためには担い手の確保が重要なことから、市民の意識や認識を深化させる社会教育の機会や、文化財の記録調査と成果により文化財の価値を高めることも必要です。加えて、地域の魅力化につながり市外から人を呼び込める学びの観光コンテンツとしての活用策が求められています。

また、社会の多様化が進む中、障がいの有無や年齢、性別、家庭環境などにかかわらず共に学び、誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現することが求められています。「いつでも、どこでも、誰でも」幸せや生きがいを感じられる学びを提供しつづけていくことで、学びに携わる人のウェルビーイングを高めるとともに、社会全体のウェルビーイングの向上につなげていく必要があります。

2 第8次計画の成果と課題

本市では、第8次鹿角市社会教育行政中期計画において「地域資源を生かし 豊かな学びで人と地域を育む」を基本理念に掲げ、次の6つの基本目標のもと、生涯学習により目指す地域の姿の実現に向け、取組を進めてきました。

基本目標に対する成果と課題は以下のとおりです。

基本目標	I 社会情勢に対応した生涯学習推進・情報発信体制を構築し、社会教育関係団体等との連携を強化します
成果	○社会教育関係団体、福祉関係団体、自治会等、様々な団体との連携による生涯学習推進体制の強化 ○インターネットの活用による情報発信体制の強化 ○社会教育施設等の活用と施設間の連携による生涯学習環境の充実 ○読書環境の充実
課題	●社会教育施設の利用者の減少 ●社会情勢に対応した学習内容及び学習機会の提供と住民の関心のギャップ ●広報活動

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
インターネットを活用した講座の年間開催数	0件	5件	5件
社会教育施設年間利用者数	278,822人	313,300人	223,685人
┌ 図書館（移動図書館車含）	116,030人	130,000人	84,069人
└ 先人顕彰館	1,486人	1,600人	1,165人
└ 歴史民俗資料館	1,619人	1,700人	1,441人
└ 大湯ストーンサークル館	19,207人	30,000人	23,600人
└ 文化の杜交流館（図書館、未来センター、花輪市民センター除く）	140,480人	150,000人	113,410人

インターネットを活用した講座の開催については、対面型とインターネット参加型から受講者が選択することができるようになり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により本市のみならず社会全体のニーズが急拡大したことも影響し、成果指標の実績は目標値の5件に達しました。新たな学びの手法を提供することができ、受講者の利便性も向上したものと分析しています。

一方、施設利用者数については、いずれの施設も成果指標を下回っており、要因として多様な事業への参加者が施設利用に直接的につながらなかったほか、人口減少に伴う利用者数の減少や大湯環状列石の世界文化遺産登録効果が薄れたことなどが挙げられます。令和7年度の新十和田図書館のオープン、文化の杜交流館コモッセの開館10周年を契機とした、新たな利用者層の取り込みや増加を目指していきます。

そのほか、社会情勢に対応した学習機会を提供したものの、参加者の増加につながらなかった事業もあり、今後は広報活動や講座の内容、参加者が参加しやすい時間や場所等を検討するなど、改善策を講じる必要があります。

基本目標	Ⅱ 地域を担う人材を育成します
成果	○「いつでも、どこでも、誰でも」学びたいときに学ぶ人への学習機会の提供 ○行動できる人材の育成 ○市民の主体的な地域活動への参画支援
課題	●学習内容の偏り ●若者の地域活動への参画

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
どごさデモ出前講座年間利用件数	152件	170件	182件
市民センター新規サークル登録団体延団体数	7団体	20団体	37団体

「どごさデモ出前講座」については、自治会や学校、企業等、幅広い団体から通年で利用申込みがあり、ニーズに合った講座を学びたいときに学びたい人へ届けられたことで、成果指標も目標値を上回っています。

市民センターの新規サークル延登録団体数についても、市民センターの講座受講者で結成されたサークルが生まれるなど、着実に市民の学ぶ意欲が高まっていることが感じられます。

また、50歳代までの若者や働き世代を対象とした「かづのの未来創造わけもの塾」の塾生によるイベントが高評価を得たほか、花いっぱい運動の活性化等、地域づくりに積極的に参画する人材の育成が図られました。

一方、出前講座の申込件数の多い講座と少ない講座の差が大きく、講座内容の見直しが必要であるほか、若者の地域活動の参画が一過性のものにならないよう、主権者意識の醸成につながる取組を実施する必要があります。

基本目標	Ⅲ 地域・学校・家庭が連携し、子どもたちの育ちと学びを支援します
成果	○地域学校協働活動※6の推進 ○学校運営協議会※7と地域学校協働本部※8が連携した活動の展開 ○家庭教育講座、子育て講座開催による家庭教育支援 ○子育て支援関係団体やPTA団体との連携による活動の展開
課題	●地域全体で子育てを支える体制の強化 ●活動参加者の固定化 ●青少年育成鹿角市民会議の会員数の伸び悩み

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数	1,179人	1,250人	2,158人
青少年育成鹿角市民会議の会員数	303会員	350会員	315会員

地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数については、その認知度向上や、学校運営協議会と合同での研修会開催等が功を奏し、ボランティア参加者も増加傾向にあり、成果指標を大きく上回っています。また、地域学校協働活動推進員※9が地域と学校をつなぐ役割を果たし、活動に参画する住民や企業、団体の増加につながっています。

一方、青少年育成鹿角市民会議の会員数については、毎年度新規会員が加入しているものの、人口減少や高齢に伴う退会等もあり、伸び悩んでいます。子育て支援関係団体と共催での事業実施や、かつのPTA連合会と合同での大会開催等、青少年の健やかな育ちと学びを地域全体で支援する機運は高まっていると感じられますが、大きな活動の広がりには至っていません。

また、少子化により、子育て世代や子どもたちにとって最も身近な組織である子ども会活動の維持が困難になってきており、子どもたちが同世代で交流できる機会を確保し、地域全体で子育てを支える体制を強化するために、子ども会組織の統合等の働きかけや、新たな枠組み作りが必要です。

基本目標	IV 地域特性や各世代に対応した学習と活動を支援します
成果	○同世代交流・世代間交流の推進 ○地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動の推進 ○学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動の支援
課題	●時代の変化や社会的要請に対応した事業展開 ●老人クラブ等、高齢者が集い学びあう場や機会の縮小

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
生涯学習・社会教育講座年間参加者数	15,774人	18,000人	18,658人
ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所延べ件数(5年累計)	1件	15件	15件

生涯学習・社会教育講座の年間参加者数は新型コロナウイルス感染症の5類への移行以後上昇傾向にあり、参加者数は成果指標を上回っており、学びの意欲の回復傾向がうかがえます。基本目標Ⅱの成果指標「市民センター新規サークル登録団体延団体数」からも分かるとおり、社会教育施設を拠点とした利用者主体による学習活動も盛んです。子どもたちが地域の産業や経済活動等について学び、将来を考える機会を提供する「ふるさと・キャリア教育」※10登録事業所数は180を超えており、地域の人材を生かし、次世代へ継承する活動が効果的に実施されています。

また、市民センターを中心に、同世代・世代間の交流を進める幅広い事業を展開しているほか、二十歳のつどいでは対象年齢の参加者による実行委員会を組織し、同世代で交流を図りながら事業の企画立案が行われています。

一方、社会教育施設や市民センターで行われる事業には、一部マンネリ化がみられ、時代の変化に即した見直しが必要と思われる事業もあるほか、働く高齢者の増加等により、高齢者が集い学びあう場や機会が縮小しています。誰もが生きがいや幸福感を感じられる、ウェルビーイングの向上につながる施策が必要です。

基本目標	V 文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します
成果	○文化ホールを活用した質の高い文化芸術に触れる機会の提供 ○市民参加型公演の実現 ○文化財保存活用地域計画の策定 ○大湯環状列石の世界文化遺産認定、毛馬内の盆踊のユネスコ無形文化遺産認定
課題	●文化芸術関係団体の組織体制強化及び指導者の育成 ●市民の文化財に対する意識の向上と認識の深化 ●民俗芸能及び文化財の保存継承と人材の育成

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合	41.0%	45.0%	43.7%
無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数	1,849人	1,740人	1,632人

文化の杜交流館コモッセでは、施設の機能を生かし、年間を通じ魅力ある文化公演を実施しているほか、市民参加型のミュージカル公演を実現する等、住民に多様な文化芸術に触れる機会を提供しています。成果指標は目標値には届かないものの、基準年値と比較し上昇しており、今後は地域の芸術文化活動をけん引し、文化を創造する人材の育成が期待されます。

文化財振興については、長年の関係者による活動が実を結び、「大湯環状列石」が令和3年度に世界文化遺産に登録され、翌年度には「毛馬内の盆踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、国内外から大きな注目が寄せられました。また、鹿角地域文化財保存活用地域計画が文化庁の認定を受け、鹿角地域の文化財の保存と活用、将来へ引き継ぐための指針が定まったことにより、今後の地域総がかりによる存続にかかる活動が期待されるなど、この5年間で鹿角市の文化財を取り巻く環境は大きく変化しています。

一方、鹿角市民アンケートの結果によれば、「鹿角市は文化遺産が豊富で誇れるまちである」と考える市民は約半数にとどまっており、本市が持つ多様な文化財に対する市民の意識や認識の深化が必要です。無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数は、少子高齢化の影響を受け、年々減少しており、既に成果指標に対する目標値を下回っています。担い手の確保は急務であり、保存団体の意識の変革も必要です。加えて、持続可能な文化財の保存には、地域の魅力化につながる市外から人を呼び込める「学びの観光コンテンツ」としての活用策も求められています。

基本目標	VI 誰もが尊重され、共に学びあえる地域社会の実現を目指します
成果	○障がい者の学習活動の支援 ○共生社会※11に対する市民への啓発活動 ○日本語を母国語としない住民への語学指導支援
課題	●障がい者と健常者が共に学べる学習機会の提供 ●日本語語学指導の目的と成果の乖離

成果指標	基準値(R1)	目標値(R7)	実績値(R6)
障がい児・者に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数(5年累計)	一講座	20講座	25講座
日本語教室延べ参加者数	250人	280人	178人

障がい児・者に配慮した生涯学習講座等は、主に比内支援学校かづの校と協力し、成年教育講座をはじめ、十和田図書館での作品展示や、かづの校高等部生徒で構成されるリンゴレンジャーの活動支援を実施したほか、健常者の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ体験会を複数回実施してきました。また、図書館内にバリアフリー図書コーナーを設け、資料の充実に努め、市民に対し広く意識の啓発を図るよう努めています。

日本語教室については、開催時期や場所、時間帯を大幅に見直したことで、一時期減少した参加者数は回復傾向にあります。技能実習生の割合が高く、当初の教室開設目的である、住民の日常生活の困難さを軽減することから乖離してきています。

また、生涯学習講座等で障がい者と健常者がともに学ぶ機会を提供するまでには至っておらず、誰でも利用できる社会教育施設を活用した事業の展開が期待されます。

第3章 基本理念、基本目標及び施策

1 目指すまちづくりの将来像

市の最上位計画に位置づけられる第7次鹿角市総合計画において掲げる将来都市像、まちづくりの基本戦略及び経営戦略は次のとおりです。

＜将来都市像＞ ふるさとを誇り 未来を拓くまち 鹿角

将来都市像の実現に向けて、5つの基本戦略と3つの経営戦略を定めています。

＜基本戦略＞

- 1 活力を生む地域産業・生業を支える
- 2 元気で健やかな暮らしを支える
- 3 快適で安らぎのある暮らしを守る
- 4 暮らしの安全・安心を高める
- 5 未来に羽ばたく人材を育てる

＜経営戦略＞

- 1 まちに若者と活力を呼び込む
- 2 「世界遺産のまち」を活かす
- 3 まちの経営力を高める

2 第9次鹿角市社会教育行政中期計画基本理念

上記の第7次鹿角市総合計画の基本戦略及び経営戦略のうち、第9次鹿角市社会教育行政中期計画は「基本戦略5 未来に羽ばたく人材を育てる」、「経営戦略1 まちに若者と活力を呼び込む」「経営戦略2 『世界遺産のまち』を活かす」を重点的に取り組む戦略と位置づけます。

本市の特長を生かした社会教育を進めるため、本計画における基本理念及び基本目標を次のとおりとします。

<基本理念>

地域資源を活かし 豊かに学び 持続可能な地域を創る人財を育成する

<基本目標>

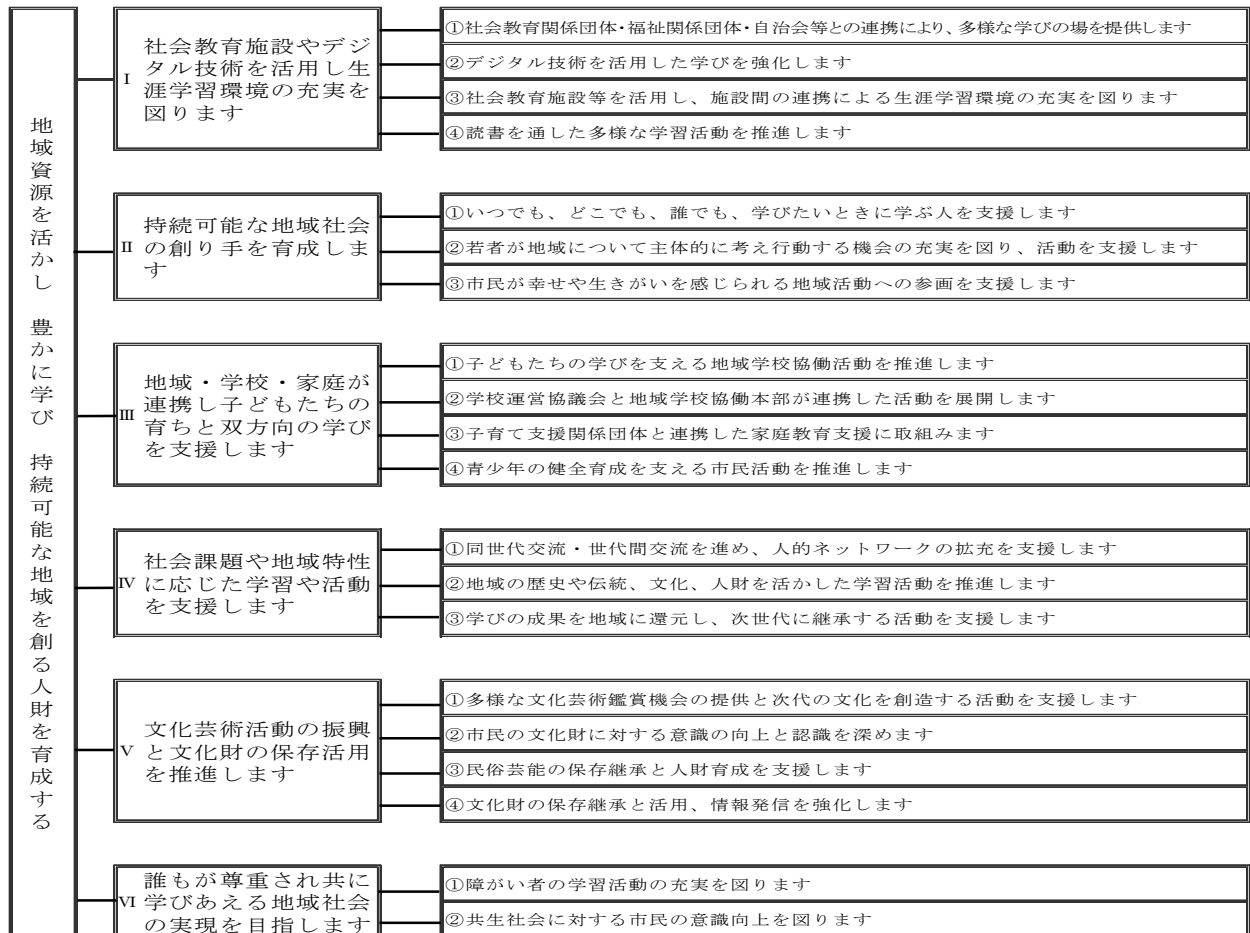
- I 社会教育施設やデジタル技術を活用し 生涯学習環境の充実を図ります
- II 持続可能な地域社会の創り手を育成します
- III 地域・学校・家庭が連携し 子どもたちの育ちと双方向の学びを支援します
- IV 社会課題や地域特性に応じた学習や活動を支援します
- V 文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します
- VI 誰もが尊重され 共に学びあえる地域社会の実現を目指します

3 施策の体系

【基本理念】

【基本目標】

【施策の方向】



4 施策の展開

基本目標を達成するための施策の方向、主な取組及び成果指標は次のとおりです。

【基本目標Ⅰ】

社会教育施設やデジタル技術を活用し、生涯学習環境の充実を図ります

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	社会教育関係団体・福祉関係団体・自治会等との連携により、多様な学びの場を提供します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会、市長部局、地域づくり協議会等（市民センター指定管理団体）、社会福祉協議会、子ども未来事業団等、様々な団体との連携事業の展開 ・花いっぱい運動の実施 ・どごさデモ出前講座の開催
②	施策の方向	デジタル技術を活用した学びを強化します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修会の開催 ・ソーシャルネットワーキングサービス等を活用した情報発信 ・デジタルアーカイブ推進事業の実施
③	施策の方向	社会教育施設等を活用し、施設間の連携による生涯学習環境の充実を図ります
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設での講座開催 ・社会教育施設及び他分野施設との共通テーマによる事業の展開
④	施策の方向	読書を通じた多様な学習活動を推進します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館事業の実施 ・学校や社会教育関係団体、子育て支援団体等との連携 ・移動図書館車の運行

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値(R12)
市ホームページ デジタルアーカイブ 利用者満足度	—	3.7 (5段階評価)
図書館利用者数	84,069人	100,000人

【基本目標Ⅱ】

持続可能な地域社会の創り手を育成します

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	いつでも、どこでも、誰でも、学びたいときに学ぶ人を支援します
	主な取組	・ だごさデモ出前講座のメニュー充実

②	施策の方向	若者が地域について主体的に考え行動する機会の充実を図り、活動を支援します
	主な取組	・ かづの未来の創り手育成事業の実施 ・ 二十歳のつどい実行委員会の活動支援

③	施策の方向	市民が幸せや生きがいを感じられる地域活動への参画を支援します
	主な取組	・ 花いっぱい運動の実施 ・ 声かけ運動等、市民の主体的活動の支援 ・ 地域学校協働活動ボランティアの育成及び活動支援 ・ 高校生ボランティアの活動支援

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値(R12)
だごさデモ出前講座年間利用件数	182 件	200 件
若者議会の参加者満足度	—	4.0 (5段階評価)

【基本目標Ⅲ】

地域・学校・家庭が連携し、子どもたちの育ちと双方向の学びを支援します

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	子どもたちの学びを支える地域学校協働活動を推進します
	主な取組	・地域学校協働活動推進事業の実施

②	施策の方向	学校運営協議会と地域学校協働本部が連携した活動を展開します
	主な取組	・地域学校協働活動推進事業の実施 ・学校運営協議会と地域学校協働本部との合同研修会の開催

③	施策の方向	子育て支援関係団体と連携した家庭教育支援に取り組みます
	主な取組	・家庭教育推進事業の実施

④	施策の方向	青少年の健全育成を支える市民活動を推進します
	主な取組	・青少年健全育成事業の実施 ・青少年育成鹿角市民会議の活動支援

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値(R12)
地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数	1,668人 (※R2-R6 平均)	2,000人
青少年育成鹿角市民会議の会員数	315 会員	315 会員

【基本目標Ⅳ】

社会課題や地域特性に応じた学習や活動を支援します

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	同世代交流・世代間交流を進め、人的ネットワークの拡充を支援します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・二十歳のつどいの開催 ・市民センター事業の実施 ・かづの未来の創り手育成事業の実施

②	施策の方向	地域の歴史や伝統、文化、人財を活かした学習活動を推進します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設、市民センターでの講座開催 ・社会教育関係団体主催講座の開催支援 ・生涯学習奨励員の活動支援 ・東洋大学地方創生協働実習の開催支援

③	施策の方向	学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動を支援します
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと・キャリア教育の推進 ・生涯学習奨励員の活動支援 ・地域学校協働活動ボランティアの活動支援

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値(R12)
生涯学習・社会教育講座年間参加者数	18,658人	19,000人
ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所件数	3件	3件

【基本目標V】

文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	多様な文化芸術鑑賞機会の提供と次代の文化を創造する活動を支援します
	主な取組	・文化の杜交流館事業の実施

②	施策の方向	市民の文化財に対する意識の向上と認識を深めます
	主な取組	・文化財保存事業の実施 ・世界遺産・特別史跡活用事業の実施 ・デジタルアーカイブ推進事業の実施

③	施策の方向	民俗芸能の保存継承と人材育成を支援します
	主な取組	・無形民俗文化財担い手育成事業の実施

④	施策の方向	文化財の保存継承と活用、情報発信を強化します
	主な取組	・文化財保存事業の実施 ・大湯環状列石関連各種事業（世界遺産・特別史跡活用、環境整備、調査研究、教育・普及）の実施 ・ソーシャルネットワーキングサービス等を活用した情報発信

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値(R12)
一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合	43.7%	45.0%
無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数	1,623人	1,600人

【基本目標Ⅵ】

誰もが尊重され、共に学びあえる地域社会の実現を目指します

<施策の方向と主な取組>

①	施策の方向	障がい者の学習活動の充実を図ります
	主な取組	・学びをサポート！共生社会推進事業の実施 ・鹿角市立図書館での「かづののりんごの棚※12」及び読書バリアフリー法関連資料の充実

②	施策の方向	共生社会に対する市民の意識向上を図ります
	主な取組	・学びをサポート！共生社会推進事業の実施 ・市民センター等での障がい者スポーツ体験会の実施

<成果指標>

成果指標	基準値 (R6)	目標値 (R12)
障がい者が参加した生涯学習関連講座・行事等の回数	3回	3回

【用語解説】

※1 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

※2 生涯学習の理念

(教育基本法第3条)

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

※3 VUCA

「Volatility (変動性)」「Uncertainty (不確実性)」「Complexity (複雑性)」「Ambiguity (曖昧性)」の4つの単語の頭文字をとった造語

※4 AI

Artificial Intelligence の略。人工的な方法による学習、推論、判断等の知的な機能の実現及び人工的な方法により実現した当該機能の活用に関する技術のこと。生成AIは文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルに基づくAIの総称。

※5 デジタルトランスフォーメーション (DX)

デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革し、現存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの。

※6 地域学校協働活動

地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を指す。

※7 学校運営協議会

学校、保護者、地域住民等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。教育委員会が学校や地域の実情に応じて設置し、学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」という。

※8 地域学校協働本部

従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制。

※9 地域学校協働活動推進員

地域学校協働活動において、地域と学校との連絡調整、情報の共有、地域住民等へ学校との協働活動を呼びかける等、地域とも学校とも良好な関係をつくり、信頼関係を築きながら活動を進めるコーディネーターとしての役割を持つ。

※10 ふるさと・キャリア教育

将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身につけるとともに、ふるさと鹿角を自分が支えようとする強い気概を持った子どもたちを育成するため、ふるさとに根差した地域参加型のキャリア教育を推進するプログラム。

※11 共生社会

これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会。

※12 りんごの棚

特別なニーズのある子どもを対象としたスウェーデン発祥の公共図書館サービスのひとつ。鹿角市立図書館では、子ども向けの触る絵本やLLブック（誰もが読書を楽しめるように工夫して作られた「やさしく読みやすい本」）、オーディオブック、点字本等の充実に努め、児童室内に「かづののりんごの棚」コーナーを設けている。

第9次鹿角市社会教育行政中期計画

発行 令和8年3月

編集 鹿角市教育委員会 生涯学習課
〒018-5292
秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1

電話 0186-30-0292

FAX 0186-30-1140